

国道沿い、富田橋より西に100 m

(2) 流れの蛇行と川原のようす。

① 土手に立って川をスケッチする。

その際、水の流れや、川原、州などを書き入れる。

② 水の流れがカーブしている所で、川原はどちら側（内側、外側）にできているか。

③ 川の合流点を観察して、⑦、⑧どちらの流れの方が、はたらきが強い話し合う。

④ 川原は砂がつもってできている。他の大きな川のように川原にレキが見られないのはどうしてだろうか。

⑤ 地図から富田川の上流の地点を調べる。  
上流は阿武隈山地でなく平野部にあるため他の川原のようにレキは見られない。

⑥ 川原において川原から反対側の岸に向かって、深さがどのように変わるか調べる。

⑦ 川原の近くと反対側の岸近くで川の流れはどちらが速いか調べる。

⑧ 大雨のあと、川の流れはどのように変わっているか、また、川原はどのようなになっているか調べる。

(3) 川原の砂の表面に見られるさざなみの模様

富田橋から上流に50 mほど歩くと、川原の砂の表面にさざなみの模様が  
見られます。これは連痕(れんこん)  
と呼ばれています。この連痕は、ほ

ぼ平行した波状のでこぼこで流速、水深などの条件が適当な時に水流や波浪の作用で形づくられるのです。

